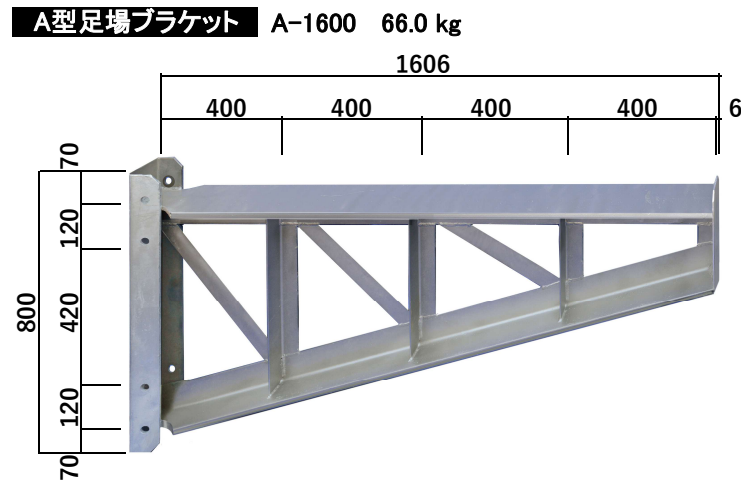
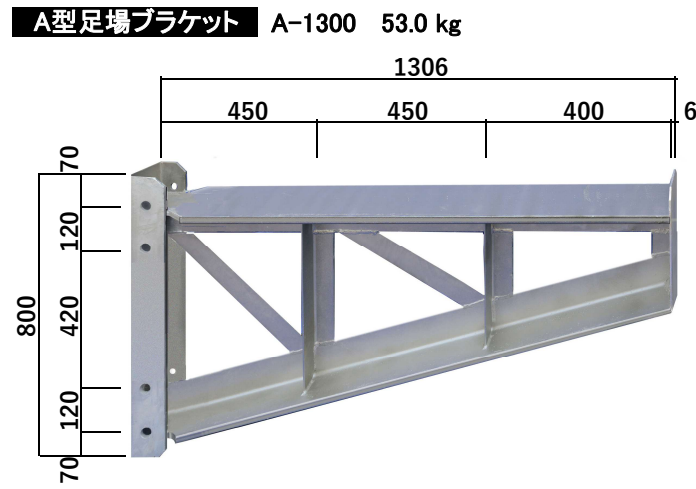
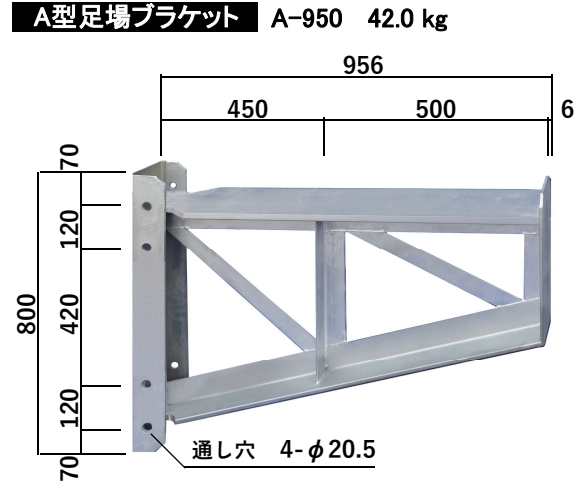
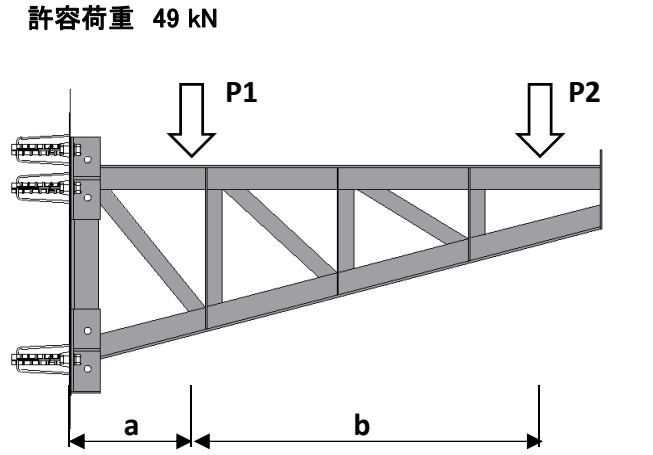


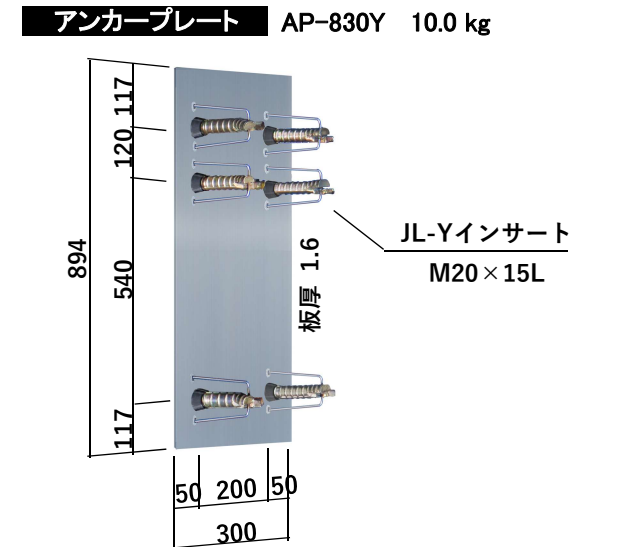
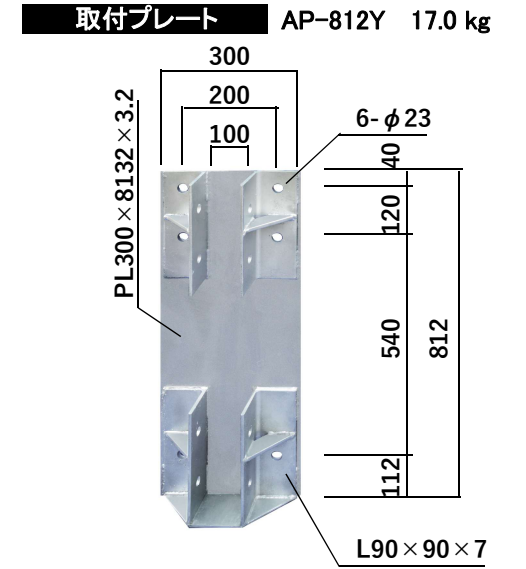
ブラケット本体と躯体への取付部(取付プレート)を分離してます。これにより重量のあるブラケット本体の取付が容易となっております。取付プレートには4段のボルトでブラケット本体を取付けます。本体下端が取付プレートで支持されますので安全に作業できます。上弦材及び下弦材にT型鋼を使用しています。一般的なアングル製ブラケットと比べ、上部面積が大きく強度面、安定感に優れます。本体の取付部はコ型断面で上弦材、下弦材と一体化されておりますので、安定した強度が保証されております。



- 取付ボルト**
- W3/4 × 150 中ボルト AP-01 3本/set
 - ハイテンションボルト AP-02 1本/set

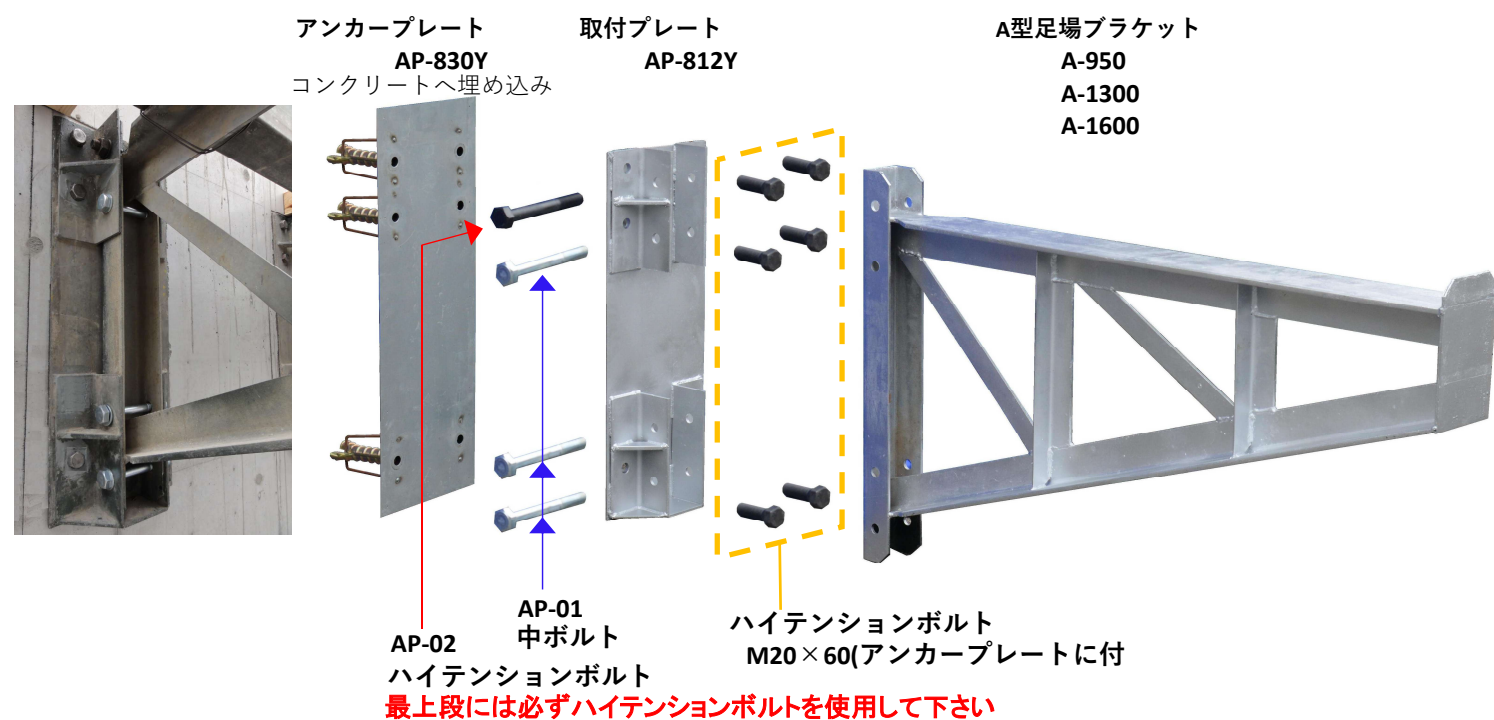


機種	許容荷重			
	a (mm)	b (mm)	P1 (kN)	P2 (kN)
A-950	300	600	22.0	27.0
A-1300	300	900	〃	〃
A-1600	300	1200	〃	〃

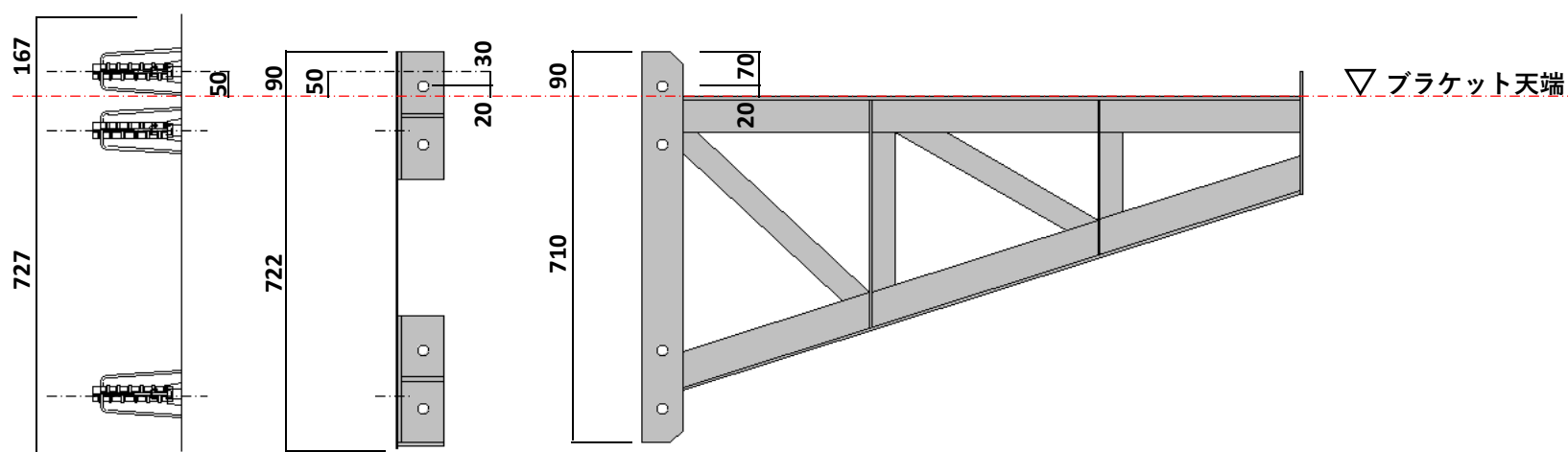


改修工事ではケミカルアンカーを使用して下さい

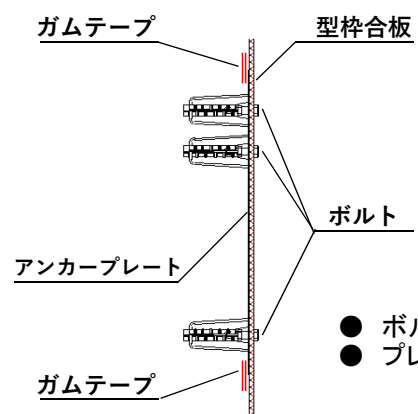
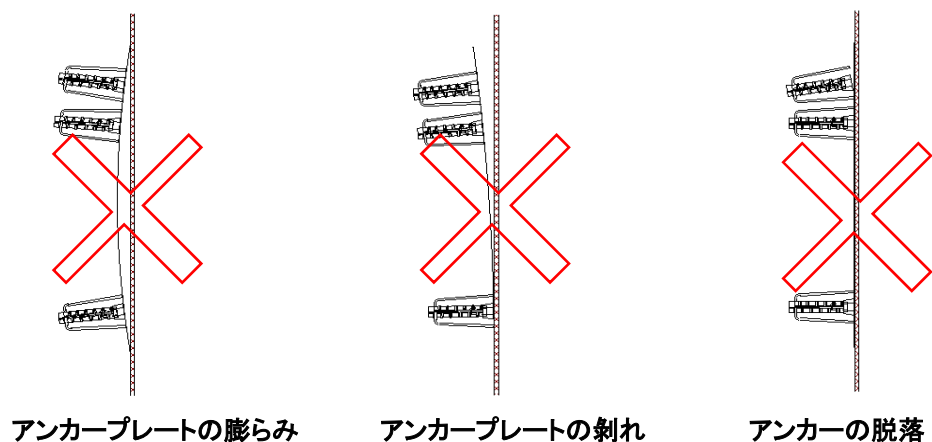
組立図



改修工事等においてアンカープレートを使用できない場合は、強度計算に基づいたケミカルアンカーを使用して下さい。アンカープレートを使用せず、他の埋込アンカーを使用の場合は、アンカーの設置間隔にご注意ください。



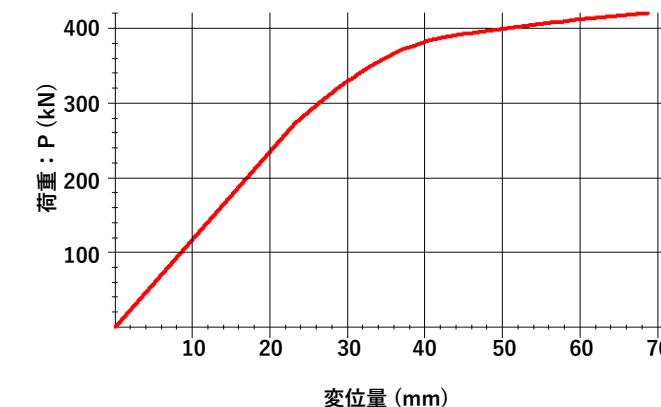
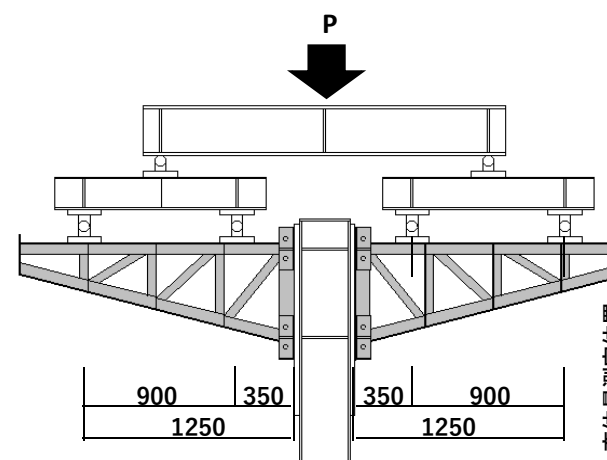
こんな設置はNG



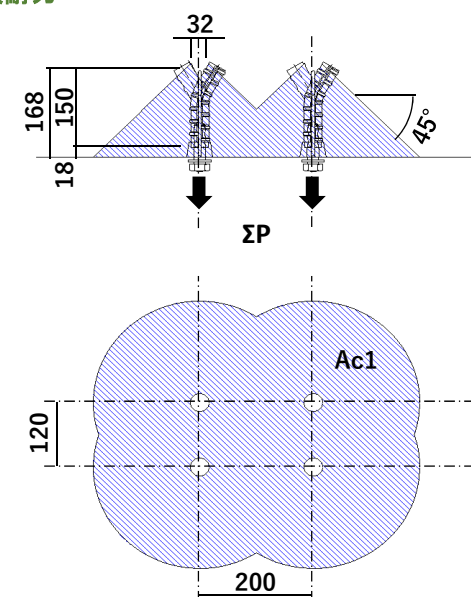
- ボルトでアンカーを型枠に固定する
- プレートの外周にゴムテープを貼る

試験データ

許容荷重 49 kN



引張耐力



コンクリート基準強度 F_c

インサートの埋込深さ $Le = 168 \text{ mm}$

インサート径 $D = 32 \text{ mm}$

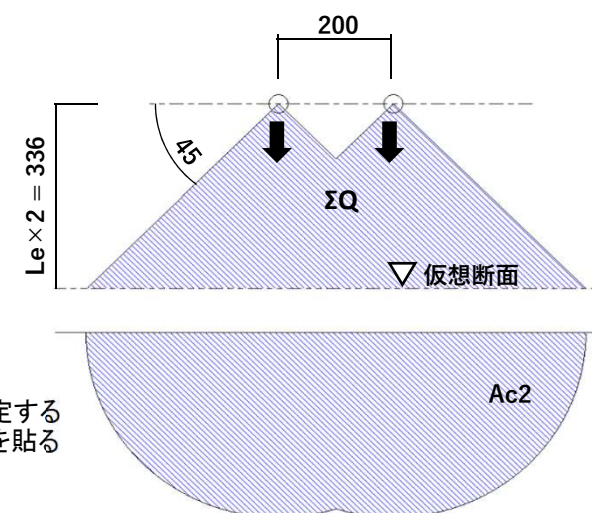
コンクリートコーン状破壊有効投影面積
 $Ac1 = 240304 \text{ mm}^2$

以上より中期の引張耐力は

$$\Sigma P = 0.5 \times 0.31 \times \sqrt{F_c} \times Ac1$$

$F_c = 18 \text{ N/mm}^2 : \Sigma P = 158026 \text{ N} (16.12 \text{ t})$
 $F_c = 21 \text{ N/mm}^2 : \Sigma P = 170688 \text{ N} (17.42 \text{ t})$
 $F_c = 24 \text{ N/mm}^2 : \Sigma P = 182473 \text{ N} (18.62 \text{ t})$

せん断耐力



コンクリートコーン状破壊有効投影面積
 $Ac2 = 243530 \text{ mm}^2$

中期のせん断耐力は

$$\Sigma Q = 0.5 \times 0.31 \times \sqrt{F_c} \times Ac2$$

$F_c = 18 \text{ N/mm}^2 : \Sigma Q = 160148 \text{ N} (16.32 \text{ t})$
 $F_c = 21 \text{ N/mm}^2 : \Sigma Q = 172979 \text{ N} (17.62 \text{ t})$
 $F_c = 24 \text{ N/mm}^2 : \Sigma Q = 184923 \text{ N} (18.92 \text{ t})$